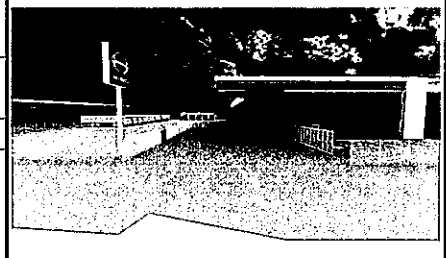


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都日野自動車(株)線部支店新築工事	階数	地上2F
建設地	京都府綾部市下八田町中溝2番7地20筆	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	30人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,380時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年4月 予定	評価の実施日	2018年8月7日
敷地面積	10,164 m ²	作成者	株式会社桶村設計
建築面積	2,223 m ²	確認日	-
延床面積	2,446 m ²	確認者	-



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 138 (kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 46

③ 上記+②以外の: 91%

④ 上記+: 91%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.5

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー LR1のスコア = 2.7

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>シンプルかつ機能的な設計を目指し、安全安心な整備工場を目指しました。自動車修理工場という用途上、油漏れを防ぐため、雨水に対する油水分離設置、敷地外漏れを防止するための敷地周囲の立上壁設置等を行いました。排水基準に対応する処理施設(除害設備)を合併浄化槽とは別に設け、環境基準に対応した排水計画を行いました。</p>		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
昼光率を高めに設定し、光・視環境に配慮しています。また、F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、空気質環境にも十分配慮しています。	補修必要間隔の長い外壁材、仕上材、配管材を採用するなど、建物の耐用性・信頼性に配慮しています。	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
Low-Eペアガラスの採用、断熱材の強化により外皮性能を上げているなど、建物の熱負荷を抑制しています。	ノンフロン断熱材を採用するなど、汚染物質含有材料の使用を回避しています。また、フリーアクセスフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしています。	駐輪場・駐車場を確保し利便性に配慮、配送車駐車を確保、入口と出口を分けて計画する等交通負荷の抑制に配慮しています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される